

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|-----------|---------------|
| 事業所番号 | 2470600228 | | |
| 法人名 | 医療法人 井上内科病院 | | |
| 事業所名 | グループホーム菫の家 | | |
| 所在地 | 三重県津市久居井戸山町751番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年 1月11日 | 評価結果市町提出日 | 平成 24年 2月 23日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470600228&SCD=320&PCD=24 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 24 年 1 月 26 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリテーションを含んだレクリエーションにより、皆さん生き生き楽しまれています。またボランティアの方々に月2～3回訪問してもらい、歌、踊り等の行事に参加出来る事を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定員6名の家庭的な事業所の前には、梨園や畑が広がり景色が良く、その収穫作業を眺めることも楽しみの一つである。又、母体病院や老健、関連法人(特養・通所・訪問・居宅介護支援事業所等)と隣接しており、医療・福祉サービスとの連携もスムーズである。利用者の平均年齢は90.5歳で、9割の方が自力歩行可能な状態を維持し、それぞれが役割(洗濯物を畳む・料理等)を持ち、自由な生活をしている。介護経験豊富な職員と管理者(看護師)の、穏やかな言葉かけや対応に加え、愛犬の存在が癒しとなり皆が和やかに過ごしている。毎日2回(午前・午後)のレクリエーション(百人一首・オセロ・トランプ・漢字を読む)や、家族やボランティアの来訪を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域の中で、他人のことを「思いやる」ことに重点をおいて理念としている。 | 理念は利用者の生活に浸透しており、訪問者や職員に対して利用者が自発的に励ましの言葉をかけ、笑顔で話をする姿が見られる。又、H23年度目標、「地域資源の一部になれるように生活していく」も掲げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩途中「野菜がとれた」と地域の方々がいつでも立ち寄って頂けるグループホームとなっている。 | 近隣の方からの野菜の差し入れが多く、地域の方が立ち寄り、話をされていくこともある。月3回のボランティア(お琴・マンドリン・手品等)や、中学生の職場体験・高校吹奏楽部の訪問もある。法人の井戸水を緊急時に地域の方に利用して頂けるよう自治会と話し合いをしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣の中学校生徒、地域の方々、ご家族の方々に対し、消火器の使い方、煙体験、避難訓練等を行って防災についての理解に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 自治会長、民生委員、行政の方々の協力を得てサービスの向上につながるよう、アドバイスを頂き運営に活かしている。 | 参加者に事業所の食事を食べていただき、食事内容を検討する取り組みや、民生委員による勉強会(熱中症、高齢者の食事に関わること等)を取り入れる等、内容も多岐にわたり、双方向的な話し合いをしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に出席して頂き、事業所の問題等を一緒に考え改善に向けて協力して頂いている。 | 認定更新等の機会で市役所へ足を運んだ時は、担当職員に利用者の暮らしぶり等、事業所の現状を伝えて理解を深めてもらっている。又、市担当者より相談の電話を受ける等、お互いに連携している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員は身体拘束をしてはならない事をよく理解している。 | 職員は常に利用者一人ひとりの話に耳を傾け、優しく言葉をかけており、玄関の施錠もしていない。自由で抑圧感のない環境のもと、利用者は皆、穏やかに過ごしている。又、内部勉強会でも理解を深めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待をしてはいけない事をよく理解している。施設内では虐待は見受けられない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在は制度を利用する方は入居されていませんが、成年後見制度について勉強している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 管理者は契約時十分な説明を行い、理解納得をして頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者と会話を持つ事で、意見、不備、苦情等早急に把握し、解決できる様に心掛けている。 | 日頃から家族の訪問が多く、職員とは気軽に話が出来る。年2回の家族会の内1回は、利用者・家族・職員が、温泉施設(ふよう荘)で、レクリエーションや食事を楽しむことで、より意見を言い易い機会となっている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を持ち、運営に反映している。 | 職員全員の勤務年数が長く、付き合いも長いので日頃からコミュニケーションを気軽に取りしており、信頼関係が築かれている。毎日の申し送りや毎月の連絡会議でもその関係が活かされている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎年職員に資格取得の声掛けをして支援している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 意欲的に研修に参加し、職員の育成に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他のグループホームとの交流により、サービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 当ホームの見学面談の機会に、事前に不安な事、求めている事等を聞き取り、本人自身が十分理解できる様に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族にも当ホームの見学時や面会時に、困っている事、不安な事、求めている事等を十分に聞ける機会を作り、受け止める努力をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人ご家族にとって、今のような支援が必要なのかを見極め支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご家族の皆さんと共に、本人がより良い生活が過ごせる様に協力関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族の皆さんと共により良い関係が作られている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 在宅サービスである事を念頭におき、ご家族、お友達、ご親戚の方々が自由に出入りして頂ける様に支援している。 | 誰でも気軽に立ち寄り易い雰囲気を作ることに心がけている。友人が訪問に来る方にはそれが継続的な事となるよう、手紙を出す支援をしている。家族と一緒に墓参りや、自宅等馴染みの場所に行く方も多い。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 6人という少人数であり、家族同士の様な関わりを感じている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了しても、ご家族の訪問があったり、連絡をしたりされたりして、付き合いを大切にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のコミュニケーションの中から、一人ひとりの思いやりや希望等を把握して、より良い生活が送れる様に努力している。 | フェースシートに記入された一人ひとりの生活歴を把握し、その時々表情や行動の変化から思いをくみ取っている。又、日頃から、食べたいものや好きな事をさりげなく聞いて、その人らしく暮らせるよう支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 独自のフェイスシートを作成し、これまでの生活歴を知るうえでの大切な資料と考え、ご家族の方々にも協力をお願いしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムを知るうえで、その人にあつた支援をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人ご家族からの意見を反映し、定期的に職員と検討して介護計画を作成している。 | ケアは担当制で、担当者が毎日気付いたことを報告し、月1回、経過記録に特記事項を記入している。それらと家族・利用者の意見をもとに介護計画を作成している。3ヵ月毎に現状に即した見直しをしているが、新たに介護計画書と評価表が整理されていない。 | 現状に即した介護計画の見直しは十分されているので、見直し毎に変更点等を記入した新たな介護計画書・評価表等の整理をすることを望む。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 受持ち制により、気付いた点をチェックして、全員でモニタリングを行っている。また必要に応じて新しい介護計画を作成している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人やご家族の希望に応じて対応している。かかりつけ医院への受診、買い物等の支援も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民生委員やボランティア、文化・教育機関等の協力を得て、支援につなげている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 母体が医療法人井上内科病院であり、安心して適切な医療が受けられている。 | 全員が母体病院をかかりつけ医としており、週一回、内科医師(理事長)の回診を受けている。異常等があれば、医師が家族に説明している。整形・皮膚科の往診も可能で、歯科・眼科は原則家族同行の受診で対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤看護師を配置しており、健康管理と医療活用の支援をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 本人ご家族にとって、今どのような支援が必要なのかを見極め支援している。入院時、医師・管理者より十分に説明して安心して治療を受けられる様に支援している。また医療機関との連絡を密にしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族と終末期のあり方について話し合いをもち、要望に応じた対応をしている。 | 運営規定の中に、重度化対応・終末期ケア対応指針を表記しており、入居時より家族・利用者の希望を聞き取り、状況の変化に応じて話し合っている。隣接する母体病院があるため、経口摂取が不可能になれば、基本的には入院し、点滴等をする方が多いが、希望があれば事業所で対応も可能である。過去に、看取り支援も行った。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 独自のマニュアルを作成し、急変時や事故発生時にスムーズな対応が出来る様に話し合いを重ねている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 自治会長、民生委員さんの協力を得ながら避難訓練や防火訓練を行っている。 | 今年度は、自動火災通報装置を設置し、訓練は年2回実施している。家族の方も参加し、消防署の協力のもと、食堂から発生した火災を想定し、煙体験を行った。夜間想定も踏まえて、隣接する母体病院の守衛も訓練に参加していただき協力関係を築いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 男女共同生活の場である為、排泄や入浴に関するケアには十分な配慮を心掛けている。 | 職員は、利用者一人ひとりがその人らしく生活ができるように、自己決定しやすい言葉かけをしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個々の力に合わせた自己決定に寄り添って支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの気持ちを大切に、個別ケアの支援をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 外出時の着替え等希望に添っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの好みを把握し、希望も取り入れながら献立を決めている。後片付けは職員と共に行っている。 | 近所から頂いた旬の野菜を利用し、利用者と共に調理(下拵え・盛り付け・配膳・後片付け等)し、それを皆で一緒に食べている。お好み焼きを楽しそうに焼く利用者の姿も見られた。献立は利用者の希望を踏まえたもので、年一回同法人の老健の管理栄養士が確認し、栄養面も配慮している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日の食事の摂取量を把握し、能力に応じて食事摂取介助の支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを本人と一緒にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 昼夜通してタイミングを見計らってトイレ誘導している。 | 全員トイレを利用しており、オムツは使用していない。(リハビリパンツ・パッド・夜間ポータブルトイレの利用あり。)さりげないトイレ誘導の声かけや、失敗してもそれを指摘せず、何もなかったように接し、自尊心に配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 散歩や体操で身体を動かしたり、水分補給を十分取る様に配慮している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日は週3回となっているも、一人ひとりの入浴の希望、タイミングに合わせて対応している。 | タイル張りの家庭的な個浴は、肩までゆったりとつかれる深さである。週3回(午後)の入浴では、一人ずつ好みの湯加減でゆっくり入って頂き、入浴日以外は、朝・夕2回、熱いおしぼりで清拭をし、気持ちよく過ごせるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動に重点を置き、生活リズムを整えゆっくり休んで頂ける様、支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 定期薬処方に用法が記入されており、職員は理解している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々様々なレクリエーション活動を支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 地域の活動に参加や散歩等戸外に出る支援をしている。 | 日頃から、事業所周辺の散歩で畑等の作物を見て楽しんだり、同法人の老健等のイベントへ参加している。他行事として、家族と協力し合い、遠足(ベルファーム)や季節毎の花見、温泉施設へ出かけている。又、お正月支援(家族と過ごす)の働きかけも実践している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の力に応じてお金の管理を任せているが、基本的にはご家族の考えを優先している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 自由に電話を使って頂いたり、葉書・切手の用意、手紙の投函支援を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 南面した居室には太陽が十分入り、居心地の良い共用空間となっている。 | 窓から心地良い採光の入る居間兼食堂は、外を眺めて季節を感じることができる。対面する開放的な台所からは、調理中の食欲そそる音や匂いがし、家庭的である。テレビ、机、本棚の傍にはソファが置かれており寛ぎの場所となっており、そこにいる愛犬も心の癒しとなっている。壁には、職員が描いた心温まる絵画が飾られている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 椅子や長椅子等を置いて、利用者同士でゆっくりと会話できる空間を設置している、 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間には馴染みの家具などを置き、本人が居心地良く暮らせる様に工夫している。 | こたつ、本、筆筒、家族の写真、趣味で作った伊勢型紙等が持ち込まれ、それぞれの利用者の思いで趣味を継続できるその人らしい居室となっている。全ての部屋に窓があり、ベッド、エアコン、押し入れ洗面台が設置されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの持っている力を十分に発揮し、自立した生活が営める様に工夫している。 | | |